

印刷物に飛び出す仕掛け

五光印刷株式会社 (蕨市)

新規3D立体印刷商材の商品化試作とカッティング工程内製化による受注拡大

どこにでもありそうな会社案内のパンフレット。開いた中から営業担当者の名刺が飛び出したら? 見る人は「どんな会社なんだろう」と興味を引かれるのではないかな。

飛び出す絵本のような仕掛けと言えば少し大げさだが、印刷物に動きを加えたり、立体的に見せたりするポップアップ商材の開発に取り組んでいるのが五光印刷だ。

商品を試作する上ではカッティングプロッター(2015年3月導入)というマシンが有力な武器になった。グラフィックデザインソフトのイラストレーターで作ったデザインを認識し、データ通りに紙を切り抜く。従来の試作はデザインを金型に起こさなければならず、外注製作で数万円かかる。一方、カッティングプロッターなら費用ゼロ。金型製作だ

と3~4日かかる期間も大幅に短縮できる。

試作品ができれば、顧客に商品の具体的なイメージを伝えられるし、顧客の要望も的確に受け取ることができる。名刺が飛び出す仕掛けのカタログケースや、蕨市のふるさと納税の返礼品にもなったマスコットキャラクター「ワラ



開くと、ポケットの中に仕込んだ名刺が飛び出すカタログケース

ビー」のファンシーセットは量産化にこぎつけた。

カタログやパンフなどの印刷物を手に取った人にいかに興味を持ってもらうか。デザインに凝り、美しく印刷してもポイと捨てられてしまえば終わり。一部を立体化したり動きを加えたりすることで、少しでも長く手元に置いてもらう。同社企画制作部の城戸俊紀さんは「捨てられない印

刷物を目指したい」と話す。

パンフや各種伝票類などの印刷物を主力とする同社の売り上げのうちポップアップ商品の割合はまだわずか。将来的には10~20%を目指す。一方、商談の材料にも使えそう。「こんな商品作れますよ」とお客様のところへ行き、通常の注文を取ってでもいいですとね」と城戸さん。使い道も豊富な商品だ。

「五光印刷株式会社」

■本社 蕨市錦町2の11の26

■代表者 代表取締役 城戸 紀夫

■設立 1965年6月

■資本金 4800万円

■従業員数 31人

■電話番号 048(447)3444

「メモ」 例規集や単行本の編集・印刷をメイン業務とする有限会社五光印刷所としてスタート。2000年に現社屋完成。オンデマンド印刷やホームページ制作などデジタル分野も手掛ける。